

実施施設への

インタビュー

社会福祉法人光輪会 第二なかよしこども園（所沢市）
園長 森下 有紀さん

Q

工夫していることはありますか

保護者説明会の時に事業説明を行っています。特に、季節の変わり目は各クラスの先生にアナウンスをしてもらう等、力を入れています。理事長も、保護者の方に積極的に事業をPRしてくれています。また、**寄付いただいた衣類が、どのように困窮者世帯に届いているか**知ってもらうため、事務局（県社協）の実績報告を園に掲示しています。ただ収集する事業ではないということが保護者の方にも伝わるようになり、気にかけてくれる人も増えました。

Q

今後の意気込みをお願いします

市社協が実施するセーフティネット事業連絡会議に出席しています。「地域で何が必要とされているのかは園の中にはわからない」という理事長の考えもあり、積極的に地域の集まりに参加させてもらっています。私も**会議に出席することで、地域の困窮者の状況を知ることができ、衣類バンク事業の必要性を感じるようになりました。**また、園児でも、ずっと同じ衣類を着ているとか、明らかにサイズがあっていない衣類を着ていて、気になる世帯もあります。そういった方々へ、衣類バンク事業を使ってもらい支援につなげていきたいと思っています。

社会福祉法人弥十郎愛育会 しらとりこども園（越谷市）
園長 白鳥 孝子さん

Q

工夫していることはありますか

園内に衣類バンクのポスターを掲載したり、事業について園だよりに掲載したりしています。今度の地域のお祭りで、事業パンフレットの配布を計画しています。自治会会長が法人理事なので協力的で、提案すると「やりなよ」と言ってくれます。自治会の掲示板に掲載することもお願いしたいと思います。

また、令和3年に「東武よみうり新聞」に**衣類バンクの記事を掲載してもらいました。**食育に力を入れていることや、彩の国みどりの優秀プラン賞を受賞したこと等、園の取組を何度か掲載してもらったことがあり、そのつながりで衣類バンク事業も掲載してもらいたいとお願いしました。たくさんの方からお問い合わせいただき大きな反響がありました。（令和3年1月18日）



東武よみうり新聞
（令和3年1月18日）

Q

地域のお祭りで衣類寄付を呼びかけていると聞きました

お祭りに園のブースを出させてもらって、衣類寄付の呼びかけを行っています。近隣の園にお祭りのポスターと一緒に衣類バンクのポスターも貼ってもらって周知しています。



Q

今後の意気込みを教えてください

事務局（県社協）に寄せられた利用者からのメッセージを見て、**中学生や高校生が多かったのに驚きました。**園に通っているこどもの年齢だけでなく、**中学生等の衣類も受け付けていることを発信していかなければならない**と思っています。また、保護者同士で衣類を交換したり、卒園後も衣類を園に持ってきてくださる保護者がいます。園では、子ども達が育てている畑に親も来てもらい一緒に学んだり、保護者同士がつながる機会も多くあり、そういった関係性ができているのかなと思っていますが、**気になる世帯があれば、寄付だけでなく、衣類バンク事業の利用にもつなげていきたいです。**

Q

社協と連携してボランティア体験プログラムの受入れを行ったと聞きました

鴻巣市社協が実施する「夏のボランティア体験プログラム」で、衣類バンク事業に寄付いただいた衣類整理をこども達に体験してもらいました。綺麗な衣類を届けるため、衣類にシミやほつれがないか一生懸命確認するこども達の姿がとても印象的でした。体験してくれた子の中に卒園児がいて、あんなに小さかった子が「こどもたちのために」とボランティア活動をしてくれるようになったのだと思うと成長も感じられ嬉しい気持ちになりました。



埼玉中央よみうり新聞
(令和6年9月27日)



参加者の声

「学校でSDGsを学んだが、環境だけでなく人のためになる取組があることを知った」

「頑張って仕分けたので大切に着てもらいたい」

Q

今後の意気込みを教えてください

貧困問題について耳にする機会が増え、園でも、理事長が積極的に困窮者状況について情報共有し、私も自分で学んだことを先生方と共有するようにしています。

知ることで、例えば給食をたくさん食べる子がいた場合、「食欲旺盛な子」と捉える以外にも、「家で満身に食べられていないかも」という視点で考えることができます。意識を高く持つことで、困っている世帯に気づき、支援につながられるよう、引き続き衣類バンク事業に取り組んでいきたいと思えます。



関係機関の皆様からいただいた

声

洋服を買うことが難しく、冬も薄手で過ごしている世帯に暖かい衣類を支援いただき、大変喜んでいました。

利用した外国籍のお母さんは、素早い対応と、季節に配慮した箱いっぱい靴や洋服に大変喜んでいました。

食料支援はフードドライブの取組が進んでいますが、衣類支援は取組が進んでいないと思います。

この事業が広く知れ渡り、多くの方々の支援につながるとよいと思います。

体の変化と共に必要な下着（生理用ショーツ等）を支援いただきました。

育児放棄の疑いがあり、親に「必要だけど恥ずかしくて言えない」とこどもから話があったため、衣類バンク事業で支援していただき助かりました。

本人も安心した顔をしていました。

衣類バンク事業を利用することで、例えば、衣類を受け取りに来てもらうことをきっかけに生活状況を聞き取る等、利用者との関係作りにもつながっていて、大変ありがたいです。

出産を控えている方が、困窮のため赤ちゃんの衣類を用意できず困っていました。

この事業の活用により、生まれてくる赤ちゃんの衣類が用意でき、利用者の方も安心した顔をされていました。今後もぜひ続けていただきたいです。